

2022年 on the web



全国がん登録概説 (がん登録概論・がん概論)

寺本典弘

四国がんセンター

臨床研究センターがん予防疫学研究部

愛媛県がん登録室

病理科



今日の内容

- がん概論

- がんって何？
- 何故がんについて知らなければいけないのか？



- がん登録概論

- がん登録って何？
- 何故がん登録をするの？

- 強制的な理由
- 医学的な理由

法律上の観点から県から説明
がん対策・がん診療にどう役立つか

全国がん登録のためのがん概論

目的

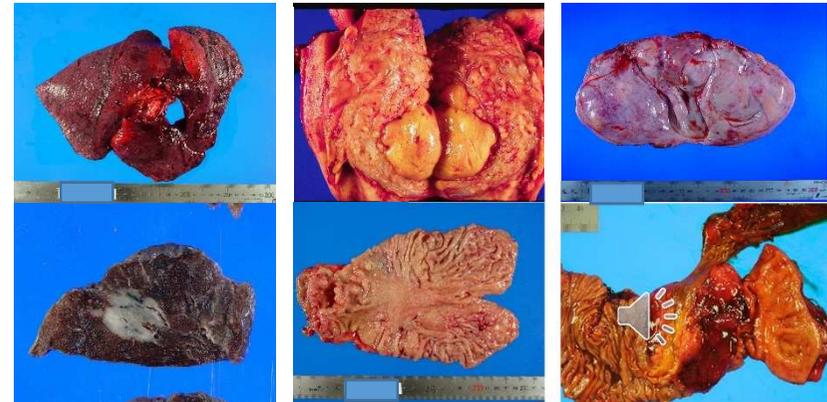
- “がん“の意味・登録対象の範囲を知る

理由

- がんが分かると登録精度が上がる

内容

- がんの定義
- 登録の対象
- がんの特性



悪性腫瘍／悪性新生物／がん

がん：悪性の腫瘍一般を指す、比較的新しい
用法＝悪性新生物に同じ

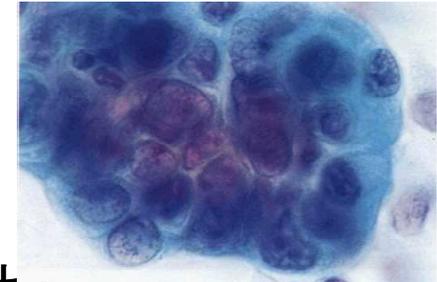
- 癌 上皮由来の悪性腫瘍(がん)
- 肉腫 間質由来(がん)
- その他
 - 悪性中皮腫
 - 悪性黒色腫
 - 白血病・悪性リンパ腫・骨髄異形成症候群

単に
中皮腫
黒色腫
リンパ腫 でも悪性

病や症候群でも悪性

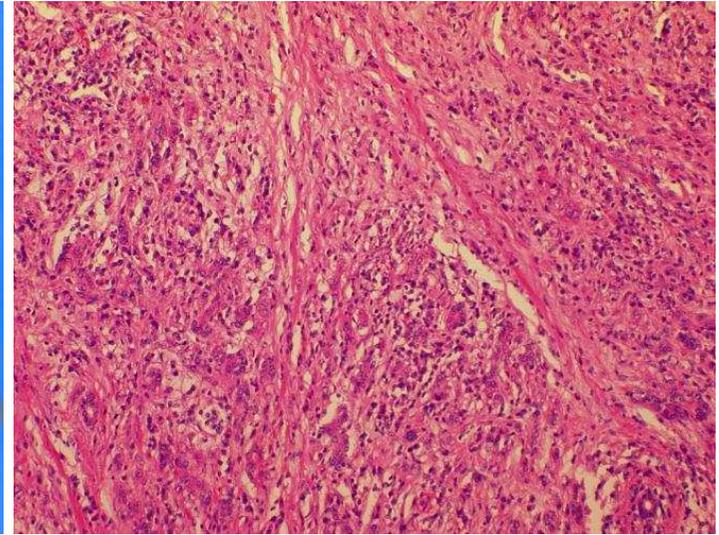
『腫瘍』とは？

- 腫瘍/Tumor: 構成する細胞の自律性増殖(not反応性)によって形成された病変
 - 悪性・良性・境界悪性がある
- 新生物/neoplasm: 腫瘍とほぼ同義
 - 腫瘍という言葉が『塊・固まり』を印象づける
 - 固まりを作らない白血病など血液疾患を含めて悪性腫瘍全体を語るときに用いられる。
 - 役所の書類などではよく使われる。
- 腫瘤/Tumor: 体に出来た“固まり”一般
 - 腫: 『塊・固まり』を意味する漢字
 - 腫瘤でも腫瘍でなければがん登録対象外
 - 病名に“腫”がついても腫瘍とは限らない
 - 血腫、肺気腫、膿腫、肉芽腫

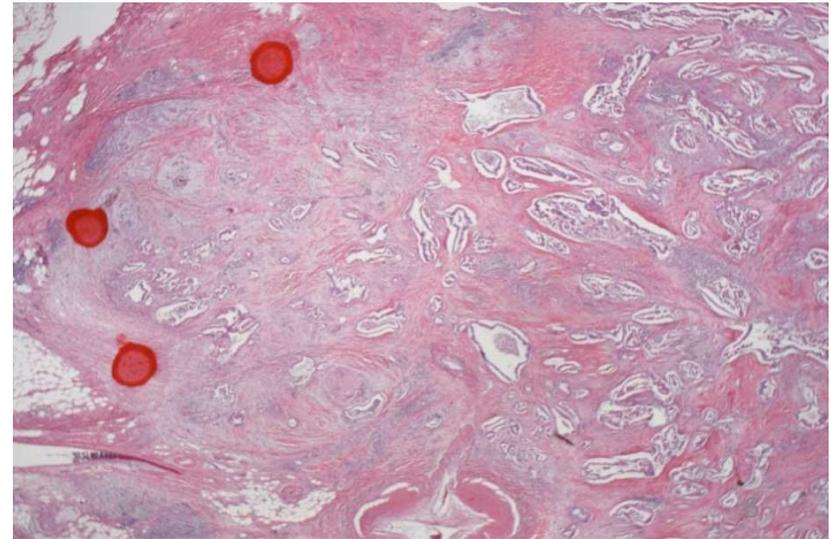
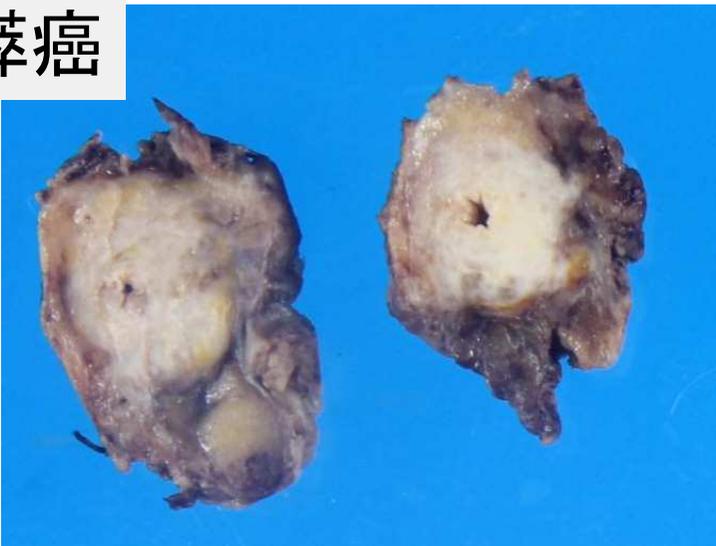


非腫瘍か、腫瘍か

腫瘍形成性膵炎



膵癌



上皮と間質

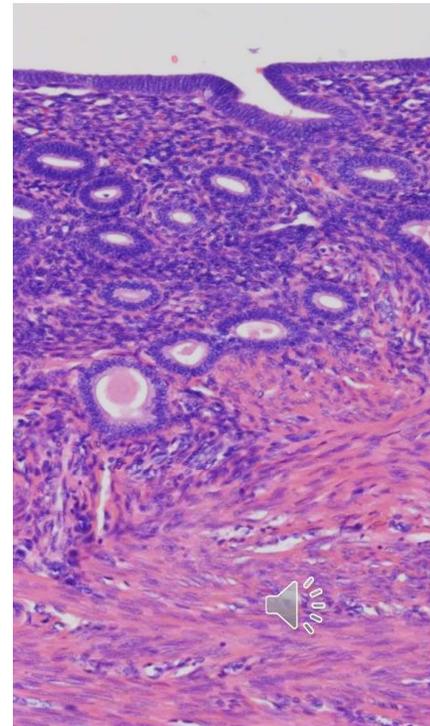
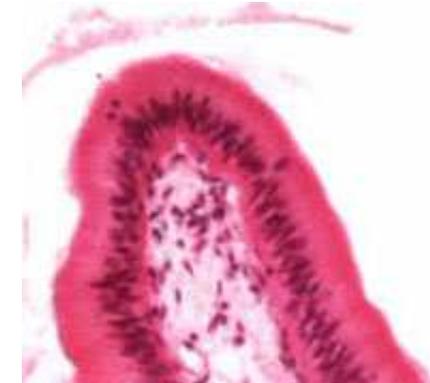


⇒癌 頻度が高い

- 上皮 (扁平上皮・腺上皮など)
 - 細胞が列をなし直接互いに繋がる
 - 保護・分泌・吸収
 - 多くの臓器でその臓器の機能を担う＝“実質”と呼ばれる

⇒肉腫 頻度が低い

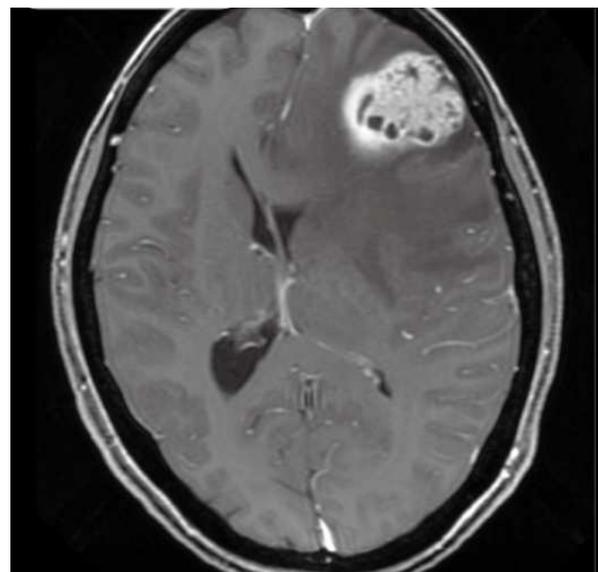
- 間質 (血管・脂肪・筋繊維など)
 - “実質”の対になる言葉
 - 機能がないと思われていた(実はある)
 - 保護・支持・補給・運動・分泌



全国がん登録の対象となる腫瘍

診療上確定した

- がん
- 一部の境界悪性腫瘍
 - 卵巣上皮性腫瘍、GIST
- 頭蓋内・脊髄内の腫瘍



超重要！

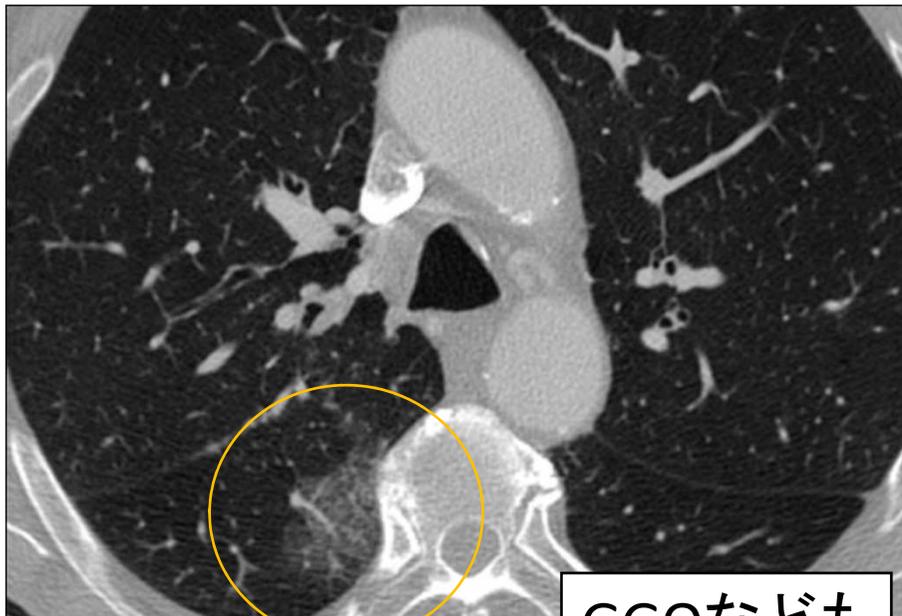


- 病理学的な確定は必須ではない
 - 『臨床悪性』もあり
- 臨床的な確定は必要

あやふやなもの
疑い例は対象外

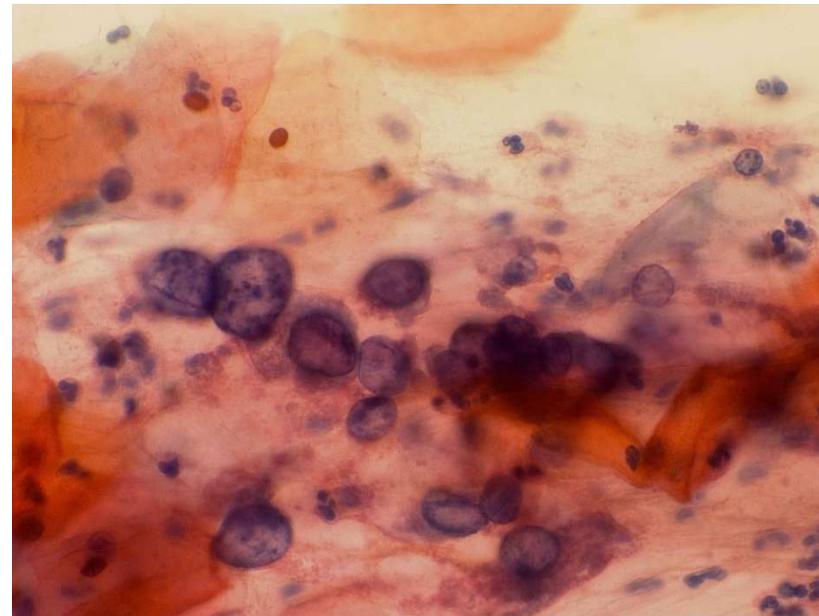
対象外の例 「疑い」症例

Xp上の陰影



GGOなども

子宮頸部細胞診ClassIIIb



がんの特性

1. 危険・腫瘍死に向かって進行する

・ 生体機能に致命的な影響を与えうる

・ 通過障害(消化管や気道)

・ 臓器の機能不全 (脳・肝・肺転移など)

・ 出血(臓器の破壊)

・ 悪液質 等

2. 発生部位の特性を持つ

これらの点は重要ながんの特性として
がん登録される



進行する

がんの特性その1

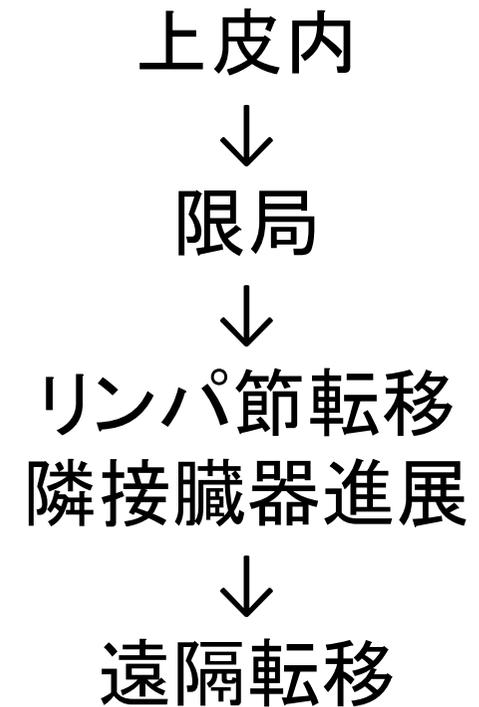
がんは自立的に成長する

1. 局所で発生し(in situ)

放置すると

2. 大きくなり(限局)

3. 周囲へ**浸潤**and/or **転移**する



『進展度』として
登録

がんの特性その2

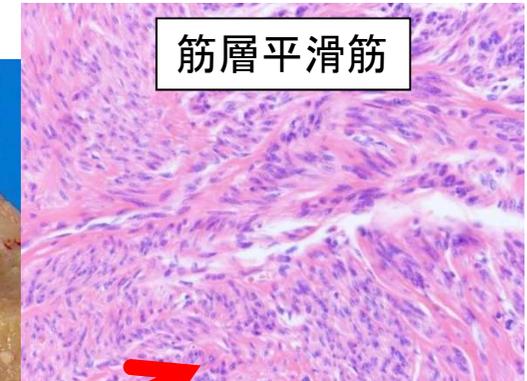
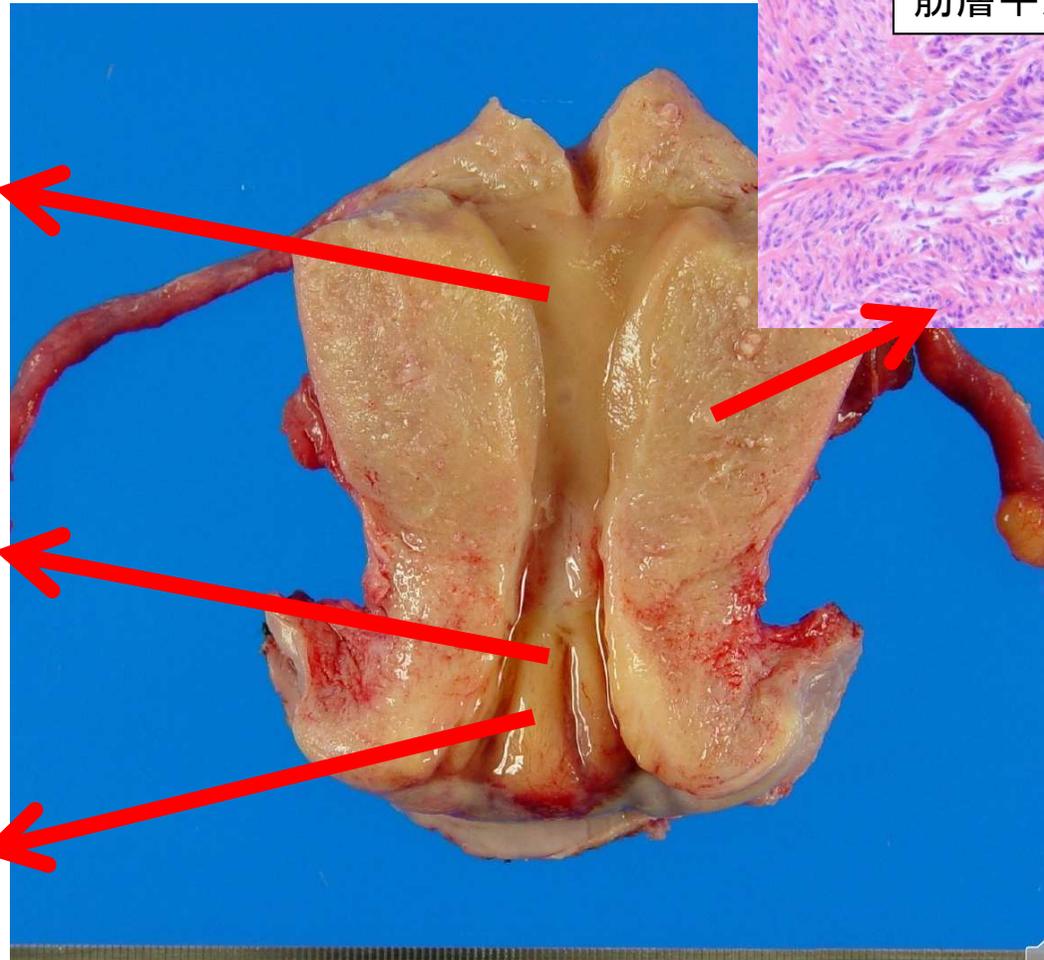
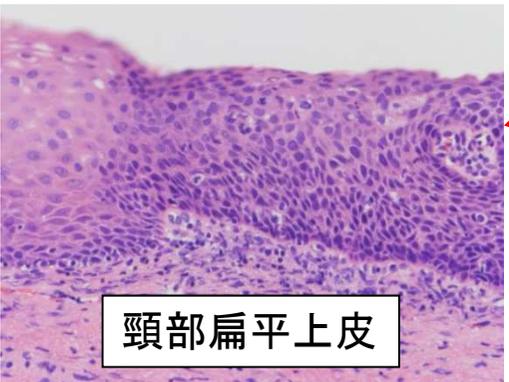
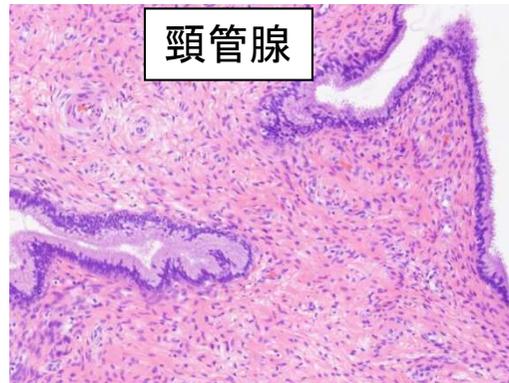
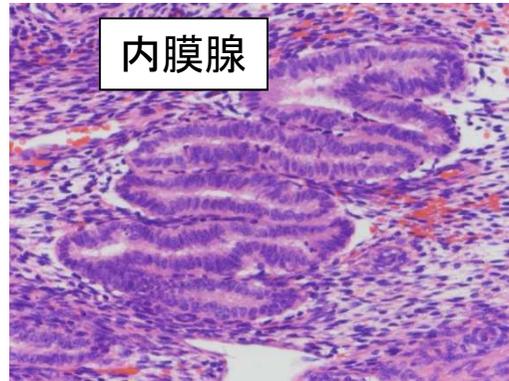
発生部位の特性を持つ

- * 臓器の役割や位置でがんの発生する原因や頻度が異なる
- * 臓器の位置や重要性でその部位に出来たがんのリスクが変わる
肺・脳・心臓⇒×全摘・強い放射線照射
- * 臓器の細胞からがんが発生する
がんは元の細胞の特性を保持していることが
(ある)

臓器⇒原発部位
元の細胞の性質⇒組織型
『原発部位・病理診断』として登録

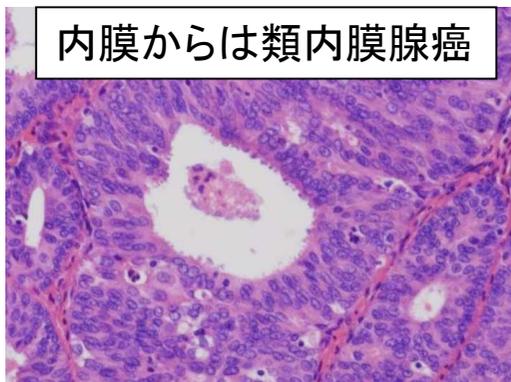


元の細胞の特性⇒組織分類 子宮を例に

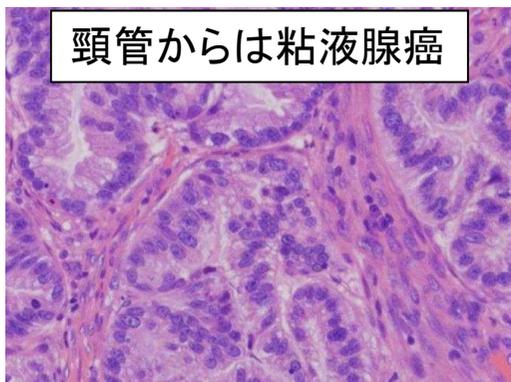


組織別の癌の発生

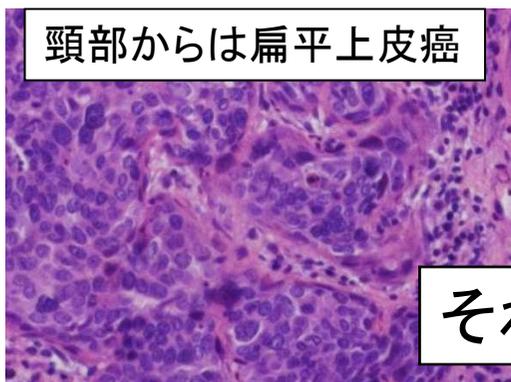
内膜からは類内膜腺癌



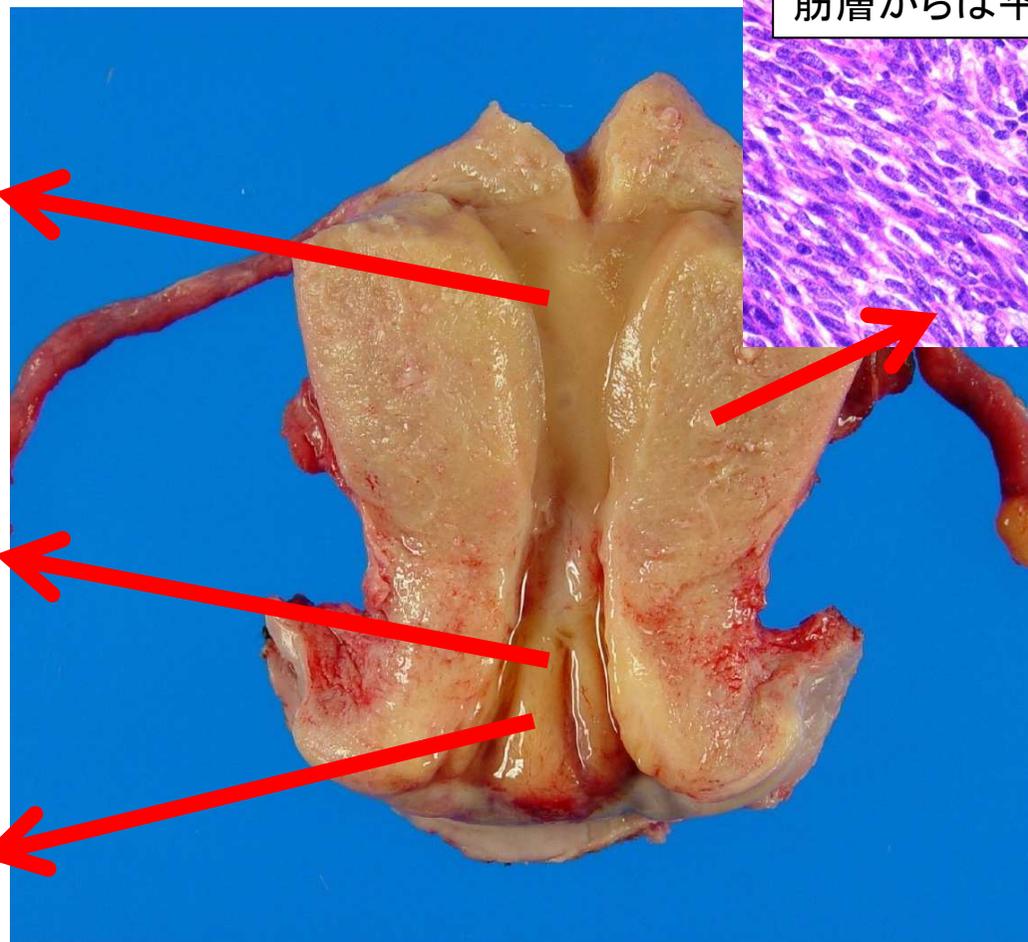
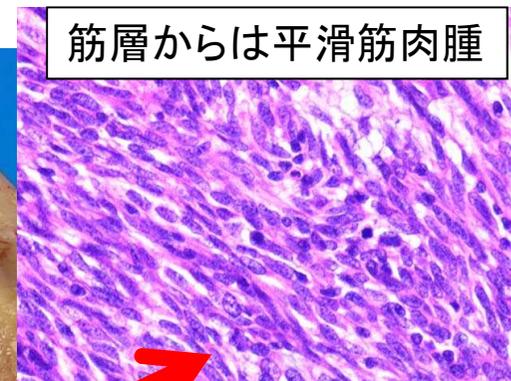
頸管からは粘液腺癌



頸部からは扁平上皮癌



筋層からは平滑筋肉腫



それぞれ、原因、頻度、治療方針、予後が異なる

全国がん登録のためのがん登録概論

目的

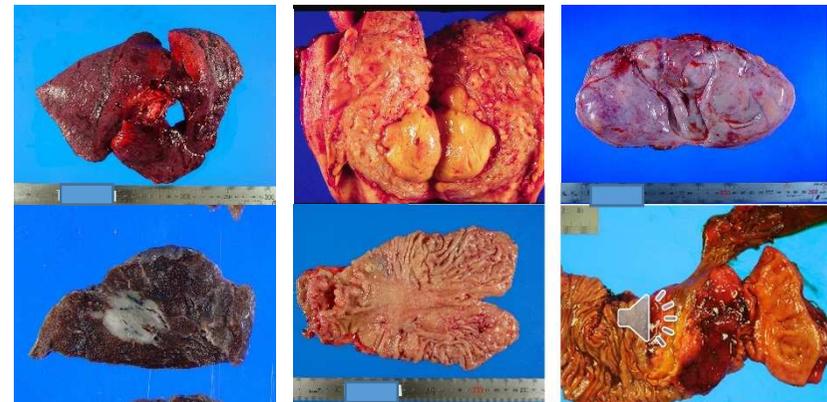
- がん登録の目的と、そのための仕組みをしる

理由

- がん登録の目的が分かると登録精度が上がる

内容

- がん登録の定義
- がん登録の目的
- 登録項目
- 法的な規則



がん登録の定義

- がん登録
 - 悪性腫瘍(がん)をルールに従って、登録したDBを作ること、あるいはDBそのもの
- 全国がん登録
 - 日本全国を対象に行うがん登録
- 全国がん登録の目的
 - 日本のがんの発生(罹患)とがん診療の現状を知ること

|| がん対策



ルール！

がん対策に必要な情報を得ることが出来る

がんをルールに従って登録したものががん登録

- だれが行うか
 - 登録する人(全病院・手上げ診療所)、集計する人(県・国が
ん)、利用する人(国・県・その他) 法律で規定
- 何をとうろくするか
 - 登録対象となるがんの定義 省令で定義
- どんなことを登録するか
 - 登録項目 省令で定義
- どうやって運用・利用するか
 - 罰則、利用規則など 法律と省令

No more !
無法ながん登録

がん対策 に何故必要か

✓ 問題の把握

- がんによる社会的影響の大きさに関する情報
 - がん死亡率 (がんで死んだ人の数/10万人)*
 - ✓ がん罹患率 (がんにかかった人の数/10万人)*
 - ✓ がん生存率 (がんにかかった人うち生きている人の割合)

*簡略化しています

• 対策の立案

- 罹患抑制 (反タバコ・反ウイルス・反貧困・反肥満、その他)
- 啓蒙 (検診啓蒙など)
- 臨床研究・基礎研究の推進
- 医療資源の充実

• 対策の実行

- 資金、関連法整備、など立案した計画の実行

✓ 対策の評価

- ✓ 死亡率・罹患率・生存率
- ✓ 早期診断比率 (進展度が上皮内・限局の割合)
- ✓ 発見経緯 (検診発見率)
- ✓ 治療内容 (切除可能割合など 治療可能な腫瘍比率の指標)

がん登録
が必要

各々の指標算出に必要な項目

がん罹患(率)

- どの地域(住所)・どんな人が(性別・生年)・何がんに(原発部位・病理診断)かかった

早期診断比率

- 上記+進展度

生存率

- 上記+ 診断日・死亡日

発見経緯(検診発見率)

- 上記+発見経緯(検診で見つかった、症状が出て見つかった など)

治療内容(切除可能)

- 手術で取り切れた/取り切れなかった・手術しなかった

名寄せ

- 各病院からのがん情報を1つにまとめる必要がある
- 名前・生年月日・住所



名寄せ

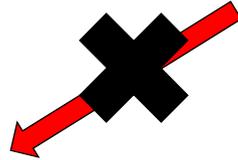
国がんへ

愛媛県がん登録室



がんには関係ない受診

がん患者が
がんには無関係の病気



同一人物・同一腫瘍
の判断(名寄せ)
要:氏名住所生年月日

同じがんを何回も数
えないために必須

院内がん登録

拠点病院B



治療

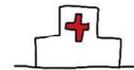
別々

届け出情報

一般病院A



がんと診断される



がん登録概論まとめ

1. がん登録はがん対策に必要
2. がん登録の項目はがん対策に必要な指標を出すために定められている
3. 名寄せのため、住所・氏名・生年月日など個人特定情報が必要
 - 秘匿性の高い個人情報を集める
4. 登録上のルール、法律上のルールに従って正しいがん登録をすれば、がん対策向上に繋がる

